



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2006. 7

No. 261

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



チベット紀行

藤田敏恵（さいたま市）

1回めぐれば、一生にわたって積んだ罪の汚れをそそぐことができるという聖山カイラス(6656m)。チベット高原の西方に位置し、インドやチベットの大河の源流域に位置する地勢にあつて、チベット仏教、ジャイナ教、ヒンドゥ教、ボン教の聖地として崇められています。チベットに魅せられて9月から10月にかけての26日間、西チベットまで旅をしてきました。

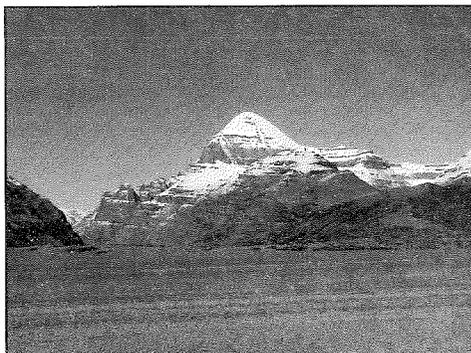
コースは、ネパールの首都カトマンズから、車で4時間のコダリで国境の橋を渡りチベットのザンムーに入る。高度馴化をしながらヒマラヤの山嶺を越え、平均標高4500mのチベット高原に出てカイラスへ。その後、さらに西のツアンダまで足を伸ばしてグゲ遺跡を見学してから反転、東に約1500*。余、ラサまで行き、ラサから飛行機でエベレストとカンチェンジュンガの間を飛んでカトマンズに帰るという行程。南側にヒマラヤの白い山嶺、例えば、シャパンマ、アンナプルナ、ダウラギリなどを望み、標高5000mの峠をいくつも越えながら幅30~40*。の大平原をランドクルーザーでひたすら走るのです。そこは、川、湖、塩で白く縁取られた塩水湖などが意外と多く点在しています。砂漠、砂丘が続き、地面に張り付くような高山植物ばかり。地面から少し高いものといえば、電線と電信柱、ときどき見かける石と土で造られたチベット人の民家や遊牧民のテントくらいなものでした。

鳥見のことは、まったく念頭になかったのですが、**幸運な出会いを報告**したいと思います。

★ **コクマルガラス**……排気ガスが立ちこめこめる盆地カトマンズで、日本の街中のガラスのようにゴミあさりをしていた。トビも多く空を舞っていた。

★ **ヤツガシラ**……標高4000m前後の地点で、電線の上、民家に飾ったヤクの頭の角、民家の石塀の上などに単独でとまっていた。絵になる光景。

★ **オグロツル**……聖湖マナサロワールの



青の深さに呑み込まれそうになりながら、隣の地図にない湖に移動した。湖面に映る雪山ナモナニ峰を眺めていると、クルーツと鳴き声。つられて右方を見るとツル2羽。その2羽が湖面に姿を映しながら汀を左方へと飛んだ。ヒマラヤを越えるツル！ 本当に不意打ちを食らった思いだった。頭から首、尾羽辺りが黒、他は灰白色。時あたかも9月23日。シェルバ族のガイドに聞くと、10月になると数が増え、11月にネパールのルンビニやインド、ブータンに飛来するのだそうだ。旅行記などによると、5月にこの辺りでオグロツルがいたとある。また、もっと低地には冬期にもいたと記されているので、チベット側で越冬するものもいるようだ。9月29日帰途、同じ湖に立ち寄ると2羽増え、それぞれ離れたところにいた。その後2~5羽の単位で合計21羽確認した。一帯が雪に覆われ、湖が凍結するのは11月末から2月にかけてだそうだ。ヒマラヤを越えるのは、有名なアネハヅルだけではないのだ。

★ ジョウビタキ……至るところで数多く見られ、圧倒的にオスが多かった。ある時など便所から飛び立った。この便所、想像がつかますか？ 土づくりの建物の屋上に3つ4つの穴が空いているだけの代物。星空もぼつちり見られる場所。

★ アカツクシガモ……いつも2羽単位で川辺や湖にいる。「魚や肉を食べず藻を食べるから仏のような聖なる鳥だ」とチベット人は言う。そういわれると物静かで何だか神々しい。

★ カンムリカイツブリ……湖を元気よく泳いでいる。他にも水鳥が多種類いるのだが、残念ながら車窓からの肉眼ではさっぱり分からない。ガイドは「サイベリアン（シベリア）ダック」と片づける。

★ ドバト？……5～10羽の群れでよく見かける。公園などで餌に群がるのと違って人気のない厳しい荒地で見かけると何だかやりしい。ドバトの原種カワラバトなのか。

★ カササギ……標高4000mを切った辺りにはポプラやヤナギの類の樹木が生え、裸麦、ジャガイモ、ソバなどが栽培されている。放牧されているのも、低地の苦手なヤクから馬や牛になる。カササギが多く見られた。風がはためくお経を書いた旗（タルチョ）の柱にとまっているカササギの姿に胸が高鳴る。

★ 猛禽類……「鳥葬の国だもの猛禽類はたくさんいるだろう」と思いきや、たまに見かけただけ。ときどき電線や電信柱にとまっていたが、識別不能。

★ 他に、ハシブトガラス、ベニハシガラス、キセキレイ、ハクセキレイ、ツバメ、スズメ、他不明種多数。小鳥の大群（50羽を越える）に何組も出会った。チベット人ドライバーは「チュー」だと教えてくれ、ガイドは「スパロウ」だというのが、スズメでないことは確か。こんなに群れてどこへ向かおうとしているのだろうか。

★ 目にした哺乳類……チベットマーモット、ナキウサギ、ウサギ、シカ、ガゼル、チベットオオカミ（一頭のみ）、野ネズミ（地面は穴ぼこだらけ）など多数。

あけまして、おめでとうございます。

皆さんの、今年のバードウォッチング計画は如何でしょうか。自然の中を散策し、きれいな野鳥を見ることは、健康管理にも素晴らしい趣味であると思います。

探鳥会に参加することは、自然保護活動の基盤に結びついています。支部報『しらこぼと』は、昨年1月号から表紙が通年カラー化され、会員の皆様にはご好評で、他の支部への波及効果も出ています。

日本野鳥の会埼玉県支部は、会員の皆様方のボランティア活動で支えられています。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

支部長 藤掛保司

蛇足です

カイラスの旅は、ランクルで漬け物石の上を走るようなもので、そのジャンピングと高山病に苦しみ、土ぼこりにむせかえりながら進むと言われています。土ぼこりは予期した通りに恐ろしいほど巻き上がっていましたが、道路は軍の兵士がせつせと整備をしていました。以前には、水があふれてカイラスの姿を拝むことができず引き返したこともあるといわれた川には、橋が架けられていました。

時々あられが降り、朝晩0℃前後に下がるけれど、強烈な陽ざしのため、何だか秋山感覚でした。われわれ一行5名の中にカイラスは二度目という方がいましたが、前回（7～8月）にはこんなに鳥影はなかったとのことでした。出会った鳥の来し方行く末を推察するのは、とても面白いことです。

チベットが中国化していく過程を目の当たりにしました。破壊された寺や壁画、仏像なども観光用に着々と修復されています。チベットの民家にはダライラマ14世の写真は1枚もなく、屋根にお経の旗と五星紅旗が一緒に飾られていることが象徴的でした。

自然は悠久だというけれど、数年前はしたり落ちる滴が手に取れる位置にあると書かれていた氷河の先端が、はるかに後退していました。巨大な人工ダムも完成していたし、幹線道路はますます整備されることでしょう。野生のロバ、ヤクは絶滅に近いそうです。

2005年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2005年9月19日 9：40～11：25
 場所：さいたま市 大久保農耕地
 天候：晴れ

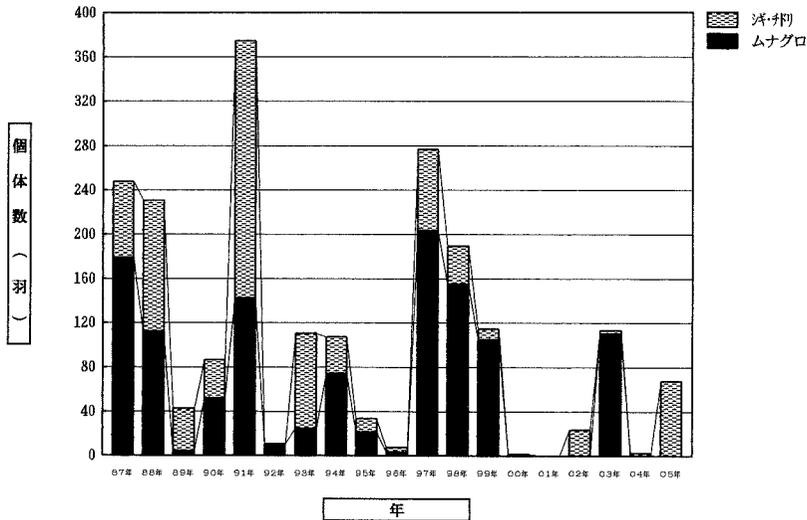
い中、ムナグロは観察されなかったものの、
 用水や湿った所でタシギが60羽観察され、種
 数・個体数は2種67羽となりました。

当日は西日本から関東地方にかけて南から
 の高気圧に覆われ、30℃を超える真夏日とな
 りました。また、3連休でしたが、支部会員21
 名の協力が得られました。ご苦労さまでした。
 稲の刈り取りも終わり、乾いた田んぼが多

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保
 農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・
 チドリ類の個体数を、表は秋のカウント結果
 をまとめたものです。

(注) 種名不明の「シギ類」は、種数には入
 れませんでした。(石井 智)

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	合計
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	9/13	9/18	9/19	
天候	晴れ	曇り	晴れ	雨	雨	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	雨	曇り	晴れ	曇り	曇り	雨、曇り	晴れ	曇り	晴れ	
1 タマシギ					1															1
2 コチドリ		26						11	1		13									51
3 シロチドリ				2	2															4
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105				110			1194
5 ケリ		2																		2
6 キョウジョシギ					2															2
7 トウネン					2		2													4
8 ヒバリシギ		1																		1
9 エリマキシギ											1	2								3
10 クサシギ	1	1			1			1		1										5
11 タカブシギ	36	15		12	17						4					3			6	93
12 イソシギ					5		1				1									7
13 ホウロクシギ													1							1
14 コシャクシギ												6								6
15 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	3	1	60	617
16 オオジシギ											2				1					3
シギ類	2	1			8			2			1	2	1			3				20
17 アカヒレアシシギ					9															9
チドリ類											1									1
シギ類													1							1
合計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	113	2	67	2027



野鳥情報

川島町松永 ◇8月18日、農耕地上空でトビ1羽が舞っているのを見ていたら、ノスリ1羽が西から東へ飛翔。この季節、平地では珍しいのでは。電柱の上でオオタカ若鳥1羽がにらみを効かせていた(鈴木紀雄)。

坂戸市中里 ◇9月16日午後4時頃、高麗川大橋ぎわ土手下の水たまりのある草地からタシギ2羽飛び立つ。同所近くの電線にコムクドリ♂2羽♀2羽(増尾隆、他4名)

本中市利根川坂東大橋下流 ◇9月16日午前10時頃、アジサシ1羽、北の国からリターンし本流上空を悠々とフライトしていた(町田好一郎)。

本中市役所裏の元小山川 ◇9月24日朝コガモ♂3羽(初認)カワセミを撮影中、ばたばたス〜と流れに舞い降りた。同じく同時刻同場所でコサメビタキ1羽、斜面林の林から対岸の桜の小枝に飛び移りフライングキャッチを繰り返していた。相変わらずつぶらな瞳が魅力的！(町田好一郎)

児玉郡神川町アカシアの湯裏の神流川 ◇9月22日、カワウ約200羽、浅瀬で羽を休めていたが撮影直後気付かれ全て一斉に飛び去る。9月25日朝、アカシアの湯裏の雑木林上空でノスリー1羽、紺碧の空を悠々と舞っていた。同日同時刻神流川の河川敷でチョウゲンボウ♂1羽、キセキレイを捕まえ流木の上で朝食をとっていた(町田好一郎)。

寄居町鉢形 ◇10月20日午前9時頃、鉢形城跡でエナガ、カケス(藤原寛治)。

滑川町森林公園 ◇10月22日、南口付近でヤマガラ2羽、カケス(藤原寛治)。

越谷市古利根川 ◇9月15日昼頃、堂面橋下流300m付近でコチドリ20羽+、イカルチドリ5羽、アオアシシギ1羽、イソシギ3羽。今年もアオアシシギがやって来ました。9月27日夕方、コチドリ10羽+、イカルチドリ6羽、メダイチドリ1羽、トウネン4羽。この場所でメダイチドリを見るのは初めて。冬羽だが、まだ胸にかすかに赤味を残していた。10月11日夕方、堂面橋下流右岸400

m地点の土手の草むらからコミミズク1羽飛び立つ。ハシボソガラス3羽が執拗に絡む。約10分後、対岸に降りるが、ハシボソガラス3羽が地上に降り威嚇。再び上空へ。1~3羽のカラスとバトル、15分後、やっと解放されて、対岸の木の根元へ。この場所で見るのは初めて。10月14日夕方、アオアシシギ6羽(植平徹)。

越谷市大吉調節池 ◇9月16日昼頃、シマアジ♂エクリプス1羽、コガモ1羽と共に泳いでいた。白い眉斑、目の下の薄い白線、羽根を伸ばした時に見えた次列風切部分の白緑白の帯。この場所で見るのは初めて(植平徹)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月21日、低空を舞い、高度を上げていくサシバ1羽。林の中、見上げる樹間を動くオオルリ♂若鳥1羽。9月26日、薄暗い用水浴いでヒラヒラする2羽。よく見たらキビタキ♀タイプでした。一緒にフェンスに並んだり、一緒にの行動。他の場所でエゾビタキ4羽。9月27日、コサメビタキ2羽。エゾビタキ3羽+1羽、キビタキ♀1羽、センダイムシクイ1羽。元荒川の川岸でイカルチドリ2羽。どこからか「チョーチョーチョー」とアオアシシギの声。秋のピークを感じる。9月28日、オオタカ若鳥1羽、サシバ、コガモ、エゾビタキなど。9月30日、オオタカ若鳥1羽、初めはカラスにモビングされていたが、その後振り切って旋回し、高空へ。そして、翼をたたんで急降下、あっという間に視界から消えた。エゾビタキ4羽、コサメビタキ1羽。10月1日、エゾビタキ1羽、トケン類(編集部註・カッコウ科の鳥のこと)1羽の飛翔を見たが、種の確認はできず。10月2日、カケス確認。10月3日、エゾビタキ3羽+、キビタキ♀1羽、コサメビタキ1羽、カケス4羽、オオタカ成鳥1羽、サシバ2羽、コチドリ3羽など。10月4日、元荒川でコガモ。遠くで判断しづらかったが、コチドリ。オオタカ若鳥1羽、エゾビタキ4羽、キビタキ♀タイプ1羽など。10月6日、ツツドリ若鳥1羽、エゾビタキ1羽、カケス4羽+。遠い空を飛ぶムクドリ

の群れに突っ込むオオタからしき猛禽1羽、狩失敗。10月7日午前、キビタキ♀タイプ1羽、カケス3羽。旧ブレーキコース南端の草むらで「チョビチョビ」など少々にごった太めの声。くっきりした眉斑、褐色の上面などからシマセンニュウと思われる個体1羽。エゾビタキ3羽、チョウゲンボウ1羽。10月12日、キビタキ♀タイプ4羽、ほとんど幼鳥か。3羽はミズキの実のあるブッシュで追いかけていた。他にもヒタキ類不明種1羽、コサメビタキ1羽。村国池で珍しくカルガモ10羽+の群中にキンクロハジロ1羽（鈴木紀雄）。◇9月18日午後2時頃、オオタカ成鳥1羽、上空通過。10月8日午前9時頃、ハイタカ1羽、カラスと空中戦。カケス2羽（藤原寛治）。◇10月1日午前10時30分頃、オオタカ2羽。1羽は、5羽のカラスと上空を舞う。西方に飛び去ったすぐ後、林から1羽舞上り、上空を旋回後、南へ去る。いずれも若鳥と思われる（植平徹）。

さいたま市岩槻区太田 ◇9月27日、エゾビタキ1羽、キビタキ♀1羽。9月30日、ふと庭木を室内から見ると枝にキビタキ♂1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇10月11日朝、チョウゲンボウ1羽、カラスに追われる（藤原真理）。

さいたま市見沼区膝子 ◇10月2日、耕作地内の草むらでノビタキ2羽（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区大宮第三公園付近 ◇10月21日、オナガガモ、ハシビロガモが2羽ずつ芝川の流れにゆったりと身を任せていた。コガモに次いでいよいよカモたちが賑やかになりそうだ（赤堀尚義）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇10月9日、A区でムナグロ約20羽、ノビタキ合計10羽位などを楽しんでいたら、コミミズク1羽がハシボソガラスの群れに追われて飛び立った。3回地上に降りたが、そのつどカラスに追われ、堤防の東側に飛び去った（海老原美夫）。

さいたま市浦和区元町3丁目 ◇10月13日午前6時、ジョウビタキ♂（藤野富代）。



ユリカモメ（道祖土修一）

さいたま市大宮区防災センター付近 ◇10月21日、公園予定地の湿地にイカルチドリ7羽がノンビリと歩き回っていた。まだ、旅の途中だろうか。近くにハクセキレイが4～5羽が飛び回り、イソギギが1羽盛んに餌をついばんでいた（赤堀尚義）。

蓮田市黒浜 ◇9月26日、上沼でタシギ1羽、カワセミ1羽。療養所付近でカケス1羽確認、今期初認。もう来ているのですね。9月27日、上沼でコガモ7羽、ヒドリガモ1羽など。10月2日、上沼で白っぽい小さい鳥が水面に、アカエリヒレアシシギ冬羽が1羽。ここで見るのは初めて。その他ヒドリガモ、カワセミ♂1羽など（鈴木紀雄）。◇10月24日、療養所でエナガの声がするので、樹冠を見ていると、かなり高いところをオオタカ若鳥1羽が旋回。カケス4羽（本多己秀）。

蓮田市笹山 ◇10月4日午後4時頃、エリマキシギ若鳥1羽が農道に出てきた。車でそうっと近づいていったら、逃げてしまった。車から降りて探したら、草むらから2羽のエリマキシギ若鳥2羽がとび出し、歩いて隣の田んぼに移動した。当地で、初見（本多己秀）。

上尾市上尾高校付近 ◇9月27日、車内からセキレイ類2羽にモビングされるタカ類1羽確認。ツミと思われる（鈴木紀雄）。

表紙の写真

カモ目カモ科コブハクチョウ属コハクチョウ次々と着水すると、家族を確認し合うように鳴き交わしていました。

大澤祐（川本町）



行事案内



ハマシギ (町田好一郎)

ご注意：寒さ厳しい季節です。すべての探鳥会で、防寒対策は十分に！

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月3日(火・祝)

集合：午前9時30分、さぎ山記念公園入口。
担当：海老原、楠見、福井、工藤、宇野澤
詳しくは、12月号をご覧ください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月5日(木)

集合：午前10時10分、森林公園南口前。
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:59発バスで終点下車。
費用：入園料400円(子供80円)
担当：藤掛、大坂、兼元、堀(敏)、堀(久)、藤澤、高橋(ふ)、池永、高橋(優)、中村(豊)、林

見どころ：新春探鳥会を楽しみましょう。カモ類が身近に観察できます。山田大沼のカワウのコロニーが、関東地方ではよく知られるようになりました。人と鳥の共存について、考えてみませんか。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月7日(土)

集合：午前8時30分、JR宇都宮線白岡駅西口。集合後8:37発朝日バス、菖蒲仲橋行きで「除堀(よけぼり)」下車。

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般100円、会員と中学生以下50円。
持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。
解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

徒歩約15分。または午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

担当：長嶋、大坂、玉井、内田、長野、松永、鬼塚、植平

見どころ：真っ白な体に黒い模様のみこアイサ、ちょっと気取ったトモエガモ類に白い化粧のホオジロガモなどを探して、新春のバードウォッチングを楽しみませんか。今年も10種1000羽近いカモたちが歓迎してくれることでしょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：後藤、中里、森本、和田、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、新井(巖)、大澤、飛田、千島

見どころ：新年を迎え、皆さんも今年の探鳥計画をお考えのことと思います。寒風吹く大麻生ですが、冬鳥たちは“恋のお相手”を探して、元気に飛び回っています。ここ数年定番になっているホオジロガモは？ カシラダカ、シロハラ、ツグミは？

ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月8日(日)

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近(大きい改札口です)。集合

後京成バス 9:40 発ふなばし三番瀬
海浜公園行きに乗車、終点下車。

交通:JR 武蔵野線南浦和 8:30→西船橋にて
総武線乗り換え、船橋下車。

担当:杉本、佐久間、菱沼(一)、齋藤、高
橋(優)

見どころ:埼玉県にはない海の鳥たちが主
役です。海ガモ類や、越冬している
シギ・チドリ類が楽しめます。ミヤ
コドリは、ついに 100 羽を超えまし
た。

戸田市・彩湖探鳥会

期日:1月9日(月・祝)

集合:午前9時10分、彩湖道満グリーンパ
ーク中央駐車場。

交通:埼京線武蔵浦和駅西口2番バス乗り
場から、下笹目行き 8:37 発で「彩湖
道満グリーンパーク入口」下車。交
差点まで戻り左折して土手を越える。

担当:倉林、藤掛、有馬、百瀬、馬場、松
村、赤坂、新部、赤堀

見どころ:メインは水鳥ですが、冬空に舞
うオオタカやヒメアマツバメも探し
ましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日:1月9日(月・祝)

集合:午前9時15分、アスレチック公園前
駐車場。

交通:東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス
③番から、彩光苑・春日部エミナー
ス行き 8:45 発で「共栄大学・短大前」
下車。西へ徒歩3分。

担当:石川、橋口、中村(榮)、吉安、廣川、
松永、宮下、吉岡(明)、新井(良)、
野村(弘)、野村(修)

見どころ:雑木林や屋敷林をのんびりと歩
きます。ツグミの仲間や小鳥たちが
出会いを待っています。今年もトラ
ツグミが来ているかも。

松伏町・みどりの丘公園探鳥会

期日:1月14日(土)

集合:午前10時15分、松伏町大川戸緑の

公園予定地。

交通:東武伊勢崎線せんげん台駅東口下車。
茨城急行バス大正大学入り口行き
9:20 発または 9:45 発で、「新川西」
下車。公園予定地のため駐車場はあ
りません。

担当:橋口、田邊、吉岡(明)、榎本(建)、
植平、野村(弘)、野村(修)、小林(善)

見どころ:県営みどりの丘公園(仮称)の工
事も7年目を迎え、駐車場の形も見
えるようになってきました。昨年は
雨で流れた探鳥会ですが、今年はい
かがでしょうか。少しずつ変貌を遂
げている公園予定地の池を巡り、カ
モ類の中に、当地での新顔を探し、
近くの古利根川を散策します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日:1月15日(日)

集合:午前8時15分、京浜東北線北浦和駅
東口、集合後市立病院行きバスで現
地へ。または午前9時、さいたま市
立浦和博物館前。

後援:さいたま市立浦和博物館

担当:楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、小菅、赤堀、新部、青木、増
田

見どころ:芝川の改修工事がとりあえず中
断しています。すでに工事が済んだ
土手には草が生え始めました。寒さ
の中でも元気です。冬空にそびえる
武甲山を見ながら、見沼から今年の
鳥見を始めましょう。

長瀨市・長瀨探鳥会

期日:1月15日(日)

集合:午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。
交通:秩父鉄道熊谷発 8:15(急行 8:41)→
寄居 8:48(急行 9:01)。

解散:白鳥荘付近、12時ころ

担当:井上、佐久間、小池(一)、小池(順)、
青山、堀(敏)、堀(久)、大澤、喜多、
堀口

見どころ:昨年は雪で中止になり残念でし
た。今年こそはヤマセミが見られる

かな? その他に青い鳥、赤い鳥に期待しましょう。

注意: 河原を歩く予定です。足場の悪いところもあります。またコース変更の場合もあります。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日: 1月21日(土)

集合: 午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当: 田中、玉井、中村(榮)、吉安、長嶋、長野、菱沼(一)、松永、榎本(建)、青木、鬼塚

見どころ: 冬本番となった黒浜沼周辺。沼のカモ類、アシ原のホオジロ類、梢のシメ、畑のジョウビタキ、冬鳥が勢ぞろい。ここにカワセミ、オオタカが姿を見せてくれれば……喝采!

『しらこぼと』袋づめの会

とき: 1月21日(土) 午後3時~4時ころ
会場: 支部事務局 108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日: 1月22日(日)

集合: 午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通: 西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車

担当: 長谷部、藤掛、高草木、石光、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、山田(義)、山口

見どころ: 入間川探鳥会も15年目に入りました。身近な鳥を見ながら、植物の話などを交えて、こつこつと活動を進めていきます。カモは少なめですが、稲荷山公園のシロハラとルリビタキに期待しましょう。

長野県軽井沢町・軽井沢探鳥会

期日: 1月22日(日)

集合: 午前9時40分、しなの鉄道中軽井沢駅待合室。

交通: 長野新幹線「あさま507号」東京7:52発→上野7:58→大宮8:18→熊谷8:

32→本庄早稲田8:43→高崎8:53
→軽井沢9:14着、しなの鉄道9:30
発に乗り換え、中軽井沢9:35下車。

解散: 午後2時ころ、現地にて。

担当: 町田、堀(敏)、堀(久)、羽生田(利)、羽生田(京)

見どころ: 長倉神社でレンジャク類を、塩壺温泉までの別荘地でケラ類、カラ類を、野鳥の森近辺では赤い鳥を探しましょう。雪対策を十分に。昼食は恒例塩壺温泉ホテルで、各自お願いします。



ノスリとホオジロ (本橋紳治)

埼玉県内年間鳥見ランキングの募集 普及部

2005年の鳥見の総決算、第5回埼玉県支部年間鳥見ランキング、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」の記録を募集します。

2004年度の探鳥会参加数1位は小川町の鈴木敬さん(52回)、県内観察鳥種数1位は志木市の藤澤洋子さん(148種)でした。

【探鳥会参加数ランキング】

「参加した探鳥会名」「実施月日」をリストにする。

【観察鳥種数ランキング】

支部の県内野鳥リストまたはそれに準じて作成したリストに「観察日」「観察市町村名」を記入する。

【応募方法】

はがきまたは封書で、住所、氏名、電話番号を明記の上、リストを下記宛先に郵送してください。

橋口長和宛。締め切りは2006年1月31日の消印有効。応募は埼玉県支部会員に限ります。



行事報告

8月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 37名 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ
バン キジバト カワセミ コゲラ ツバメ ヒ
ヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) 木
陰があるので暑さは思ったほどではなく助かった。
しかし、肝心の鳥の姿が少ない。学習センター横
の桜の木にコガネグモ(絶滅危惧種)が円網を張
っていた。河原ではチョウゲンボウが見られた。
定番のカワセミも出現してくれた。(岡安征也)

9月25日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 22名 天気: 曇

カワウ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサ
ギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ バン
イソシギ タシギ シラコバト キジバト カワ
セミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
モズ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (24種) 台風17号が房総
沖を通過中とあって、中止のつもりで集合場所
に行ったところ、幸いにも雨が上がり、強風の中
でも参加者が集まった。松伏公民館は前日に中止
決定しており、支部単独での探鳥会を執行した。お
目当てのサギは、7種を期待したが、ゴイサギと
ヨシゴイは見つからなかった。アマサギとコサギ
とチュウサギが同じ田んぼに入っており、良く比
較することができた。シラコバトの方は、申し訳
みために1羽が見られただけであった。それでも
観察種数が24となり、道端のヒガンバナに負けな
い参加者の鳥に対する「真っ赤な情熱」に圧倒さ
れた探鳥会となった。(田邊八州雄)

10月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 52名 天気: 快晴

カワウ コサギ アオサギ キジバト ヨタカ
カワセミ コゲラ イワツバメ ヒヨドリ モズ
シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ カケ

ス ハシボソガラス ハシブトガラス (17種) 咲
き乱れるツリフネソウ群落が秋の到来を告げてい
た。鳥影が少なく困っていたところにヨタカを
発見したとのビッグニュース。篠が茂る藪の上に
突き出た横枝に木のコブのように止まる珍鳥の姿
を全員が堪能した。その後はヨタカの話でもちき
りだった。参加者にとって予期せぬラッキーな出
会いだったと思う。(岡安征也)

10月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 71名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
オオタカ イソシギ キジバト カワセミ ツバ
メ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワ
ヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (23種) 稲はほとんど刈り取
られたというのに猛暑。長びく残暑のためかオオ
ヨシキリが「まだいるぞ」と顔を出す。最後に救
ってくれたのがノビタキ。大汗のち秋を実感。ノ
ビタキも口をあけて暑そうだった。(手塚正義)

10月9日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

10月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

新井浩、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲
四郎、佐久間博文、志村佐治、新部泰治、藤野富
代、松村禎夫

10月16日(日) 浦和市 三室地区

雨のため中止。

10月22~23日(土~日) 長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 31名 天気: 22=曇時々雨、23=曇後晴

カイツブリ アオサギ カルガモ コガモ トビ
ハイタカ タカsp. キジ オオバン キジバト
アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ キ
セキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ アカハラ
センダイムシクイ ウグイス キクイタダキ ム
ギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シ
ジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダ
カ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ウソ
イカル シメ ニュウナイスズメ スズメ カケ

ス ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 天気予報は芳しくない。どうにか持つように念じながらバスにゆられる。雨の降らないうちに鏡池を目指す。カラの混群に出会う。その中に、キクイタダキ、ムギマキを確認したが、一部の人たちだけだった。マヒワの群れが上空を飛び、梢に止まってくれた。鏡池は紅葉していたが、例年よりかなり遅い。今年も大型ツグミ類が少なく、遠くのシルエットしか見えない。どうにかアカハラだけは確認できた。夜半は激しい雨音を聞きながらウトウトしていたが、朝は上がって、霧に包まれていた。天気は回復したが、相変わらず鳥影は少ない。過去にムギマキを見たポイントに移動。前はあの辺の枝にと思いながら目をこらすと、なんとムギマキの雄がいた。完全な成鳥ではないが、きれいな個体だった。マミチャジナイは確認できなかったが、例年と変わらぬ種類数。じっくり見ることができなかった分、来年への期待? (菱沼一充)

11月3日 (木、休) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 65名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ノスリ キジ バン オオバン キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 色づき始めたケヤキやハナミズキを眺めながらスタートした。池に出ると、早速ヤナギの天辺でベニマシコが迎えてくれた。幸運な数人の方だけ楽しむことができた。ここでは近年数が殖えたオオバンが忙しそうに餌取りに夢中になっている。アシ原ではアオジ、オオジュリンが戻ってきていた。青空高くノスリが舞ってくれた。工事中の調整池ではカモ類が一通り揃っていた。あちらこちらで識別の勉強会になり賑やかな時を過ごした。シラコバトが見られなかったのは残念だったが、天候に恵まれ秋の日ののんびり探鳥会だった。(中里裕一)

11月6日 (日) 上尾市 丸山公園

参加: 47名 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ

カルガモ コガモ オオタカ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 晩秋にしては青い葉が多すぎるためか、冬鳥をはじめ鳥影が少ない。池のカイツブリを見ていた時にシメだとの声。あーラッキー。公園を出て河川敷でモズ、続いてカケスが対岸の篠竹に掴まり全身を見せた。その後もオオタカ、ツグミと出て、一部の人がジョウビタキ♀を見られたので、はじめの心細さも吹き飛んでしまった。

(大坂幸男)

11月13日 (日) 熊谷市 大麻生

参加: 43名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ クサシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 天候にも恵まれ、絶好の探鳥会日和だった。出発間もなく上空でオオタカとチョウゲンボウのモビング。さらにノスリ2羽が上空を旋回。冬鳥の人気者ジョウビタキも♂♀出現。明戸堰では、コハクチョウ、ヨシガモ等カモ科8種。出現を予測していたシメやアオジ、カシラダカ等の姿を確認できなかったのは残念。次回に期待しよう。(後藤康夫)



コサギ (古澤洋子)



ルリビタキ (小林ますみ)

F 連絡帳

●支部ホームページのURL変更

新しいURLは、下の枠内にもある通り、<http://35.tok2.com/wbsjsaitama/> です。

毎月更新するのはtopの「今月の鳥」(『しらこばと』表紙の写真と同じ)だけ。省手間スタイルで、会員ではない人を対象に、日本野鳥の会埼玉県支部とはどういう団体なのか、探鳥会とは何か、どうしたら入会できるかを伝えたい、という基本方針で作りました。

本部・関係団体等以外の、個人のリンク先は、支部会員のみに限ります。野鳥を中心とした個人のホームページで、リンクご希望の方は、ご連絡ください。

●高病原性鳥インフルエンザへの対応

支部ネット通信 11月臨時号の一部をご紹介します。「高病原性鳥インフルエンザの致死性の強いものが国内で野鳥に発生してしまった時のことを考え、財団事務局としての対応行動計画とともに、各行政機関への体制整備の要望を検討しています。野鳥への被害や、社会不安を低減していくためには、2004年発生時のよう

な、各支部のみなさんのご協力と連携も必要になって来ようかと考えられます。いざと言う時には、支部のみなさんとも迅速に連絡をとらせていただきたいので、よろしく願いいたします。(自然保護室長/古南幸弘)

●普及活動

11月9日(水)川越市小畦水鳥の里公園で開催された川鶴公民館主催「かわつるセミナー」で、3回目の探鳥会を指導しました。担当者:大坂幸男・藤掛保司・藤澤洋子。参加 23 名。観察 24 種。

●事務局の予定

1月7日(土)編集局・普及部会議。
1月14日(土)2月号校正(午後4時から)。
1月15日(日)役員会(午後4時から)。
1月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。
(今月からまたいつもの第3土曜日です。)

●会員数は

12月1日現在 2,336 人です。

活動報告

11月11日(金)本部常務会に出席(海老原美夫)。
11月12日(土)12月号校正(海老原美夫・大坂幸男・山田義郎)。
11月20日(日)役員会(司会:藤掛保司、支部ホームページ・その他)。
11月21日(月)12月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

風邪とインフルエンザの違いを、インターネットで調べてみた。風邪は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみ、咳などが中心で、熱はインフルエンザほどは高くなく、症状は3~4日で治まることがほとんど。一方、急に38℃以上の高熱が出て、それが4~5日から1週間続く。頭痛、のどの痛み、鼻汁などの諸症状が、発熱の後に出てくるのがインフルエンザ、とのこと。素人判断は良くないだろうが、私の場合は、やはり立派に風邪だったのだと、納得。(海)

しらこばと 2006年1月号(第261号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社